



虫や動物はなぜ冬眠するの

生活しにくい季節は休んだほうが楽

多くの動物や植物は、寒い冬は活動をひかえめにしています。冬、植物の多くは葉や実を落とし、冬越しの準備をしています。これらの植物をえさとするこん虫や小動物も、えさが手に入りにくくなります。動物の冬越しは、えさを取らないかできるだけ少ないえさですむようにして、春のくるのを待ちます。卵やさなぎであれば、えさを食べなくてもいい状態ですから、こん虫の多くは卵、あるいはさなぎで冬を越します。

親の姿で冬を越す場合、それぞれの仕方であさの少ない冬をのりきっています。こん虫や小動物は変温動物といって、体の体温が回りの気温と同じになる動物です。これらの変温動物は、気温が下がれば体温も下がり、ほとんど動けません。動かなければエネルギーもほとんど使いませんので、すき間にじっと身をひそめていれば、体にたくわえた栄養だけで生きのびることができ、春がくるのを待ちます。

冬眠するほ乳類

ほ乳類の冬眠は、こん虫や小動物とようすが大きくちがいます。ほ乳類は定温動物といって、体温をいつでも一定に保つ動物です。体の体温を保つためには、どうしても多くの栄養が必要です。冬眠するヤマネヤリスでは冬眠状態のとき、いつもより低い体温にすることができます。これで、えさを長いあいだ食べなくてもすむようになります。クマも冬眠しますが、体温の低下はほとんど見られません。眠りについた状態で、体にたくわえた栄養だけですごします。冬眠する動物は秋の内にたくさんのえさを食べ、体の中に栄養をたくわえてから冬眠に入ります。また、シマリスは冬眠中にときどき目をさまし、地下にうめてためておいたえさを食べます。（監修・中山 周平）

